（様式２）【ホームページ掲載用】

研究課題（テーマ）	シミュレータを用いた術後患者状態変化への看護に関するシミュレーション教育の有用性		
研　究　者	所　属　学　科　等	職	氏　　名
代表者	看護学部　看護学科	講師	寺内　英真
分担者	看護学部　看護学科	教授 助教 准教授	桒子　嘉美 竹口　将志 城戸口　親史

研究結果の概要

【背景・目的】

近年の傾向として、患者の権利擁護・配慮の観点から看護学生が臨地実習で実践技術や臨床判断力を学ぶことが難しくなっている。また、現在、COVID-19 による臨地実習の実施が困難な状況から、シミュレータを使用した状況設定教材の作成と実施の必要性が高まっている。

そこで本研究では、本講座で実施しているシミュレータを用いた『術後患者の状態変化に対する看護』演習での学修達成度および学生の学びの内容から演習の教育効果、シミュレーション教育の有用性を明らかにすることを目的に研究を実施した。

【研究方法】

研究参加の同意が得られた学生に対し、成人看護学演習Ⅰで実施したシミュレーション演習の学びの内容について、チェックシートに基づき自己評価した記録からデータ収集を行った。さらに、演習の達成度に関するルーブリック評価表の自己評価内容から得られたデータから、各学生の学修達成度を分析し、演習の教育効果を分析した。また、演習での学び、教材の評価、満足度に関するアンケート調査を実施し、学生の演習に対する評価から、シミュレーション教育の有用性を検討した。

【結果】

シミュレーション演習での観察項目のチェックは、概ね観察できている結果であった。しかし、『心電図』『SBAR での報告』については他項目と比べて実施率が低かった。学びの記載では「根拠を踏まえた状態観察の必要性」を記載している学生が複数いた。

演習達成度については 40 点満点中、平均 30 点台となっており 7 割以上の到達が得られた。演習の満足度についても 70%以上の満足が得られていたが、演習時間の配分などで改善の必要性が示唆された。

これら結果より、本演習でのシミュレーション教育の効果は、ある程度見られたという結果となったが、時間配分や演習課題の提示方法などの改善の必要性も明らかとなった。

今後の展開

今後、実施される演習について、継続的に教育状況と演習に対する評価を行うことで、横断的にシミュレーション教育の効果を検証していきたいと考える。将来的には、学年進行や卒後の教育効果への影響について評価していくことを検討したい。なお、本研究成果については、学会発表および論文投稿を予定している。